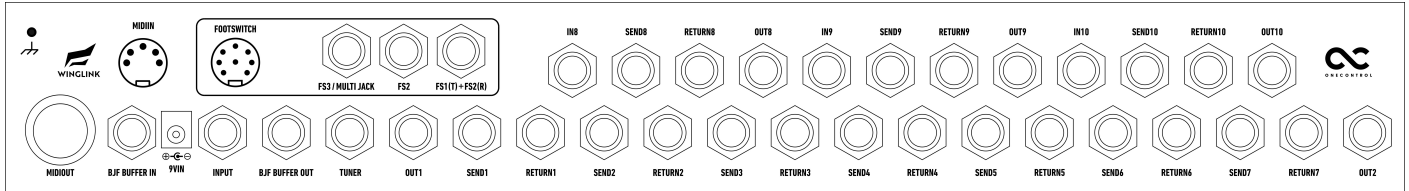


One Control Crocodile Tail Loop Wing OC10W

取扱説明書

このたびはワンコントロール クロコダイルテイルループウィングをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
本機の性能を発揮するためにも、ご使用前に当説明書をお読みください。

1.リアパネル



・9V IN

電源を接続します。センターマイナスDC9～12Vアダプターで駆動します。

・B.JF BUFFER IN

ここから入力された信号はバッファ回路を通ります。B.JF BUFFER OUTにケーブルが接続されていないときはループ1へ、B.JF BUFFER OUTにケーブルが接続されているときはB.JF BUFFER OUTにシグナルが送られます。

・INPUT

ここから入力された信号はそのままループ回路へ送られます。バッファ回路を通したくないときや、バッファをインプット以外の部分で使用したいときはこちらの端子を使用します。

・B.JF BUFFER OUT

B.JF BUFFER IN端子から入力された信号の出力端子です。ここにケーブルを接続するとB.JF BUFFER INとB.JF BUFFER OUTが直結されます。この時、ループ1はINPUT端子にのみ接続されます。

・TUNER

MUTEスイッチON時、OUT端子からの出力がミュートされ、入力信号がそのままTUNER端子より出力されます。

・OUT1、OUT2

直列ループ(LOOP1～LOOP7)のアウトプット端子です。OUT1、OUT2は内部で並列に繋がれているため全く同じ信号を出力します。

・SEND1～7

ループ1～7に接続するエフェクターのインプット端子と接続します。

・RETURN1～7

ループ1～7に接続するエフェクターのアウトプット端子と接続します。

・IN8, IN9, IN10

独立ループLOOP8～LOOP10の各ループのインプット端子です。

・SEND8, S9, S10

独立ループLOOP8～LOOP10のセンド端子です。エフェクターのインプット端子と接続します。

・RETURN8, R9, R10

独立ループLOOP8～LOOP10のリターン端子です。エフェクターのアウトプット端子と接続します。

・OUT8, OUT9, OUT10

独立ループLOOP8～LOOP10の各ループのアウトプット端子です。

※OUT8-IN9、OUT9-IN10はケーブルを接続しなければ自動的に内部で接続されます。

・FOOTSWITCH、FS1 (T)+FS2(R)、FS2、FS3/MULTIJACK

8PIN DIN端子と3つの端子は、アンプや外部エフェクターを制御するためのリモートスイッチを接続します。

FS1 (T)+FS2(R):ステレオケーブル、またはモノラルケーブルを接続します。ステレオケーブル接続時はTIPがFS1、RINGがFS2のシグナルとなります。FS1とFS2はノーマリーオープン（NO）のラッチスイッチです。FS2端子にケーブルが接続されている時、モノラルのみ（FS1のみ）の出力となります。

FS2:モノラルケーブルを接続し、FS2のシグナルを出力します。FS2はノーマリーオープン（NO）のラッチスイッチです。

FS3/MULTIJACK:FS3/MULTIJACKスイッチがFS3モードのとき、モノラルケーブルを接続し、FS3のシグナルを出力します。FS3はノーマリーオープン（NO）のラッチスイッチです。

MULTI JACKモードの時はFS1 (T)+FS2(R)とFS2端子は無効となり、モノラルケーブルでFS1～3のスイッチングを電圧差によって出力します。これは一部のヴァンテージアメリカンアンプ等の、モノラルケーブルで3つのフットスイッチを制御するアンプに対応しています。

8PIN DIN:DINプラグを使用するフットスイッチ端子を備えるアンプを操作する際のケーブルを接続します。各端子、フットスイッチの組み合わせはFS1～FS3とSLVスイッチで設定します（設定は後述します）。

・MIDI IN

外部MIDIコントローラーからのMIDIメッセージを受信します。受信するMIDIチャンネルは1です。

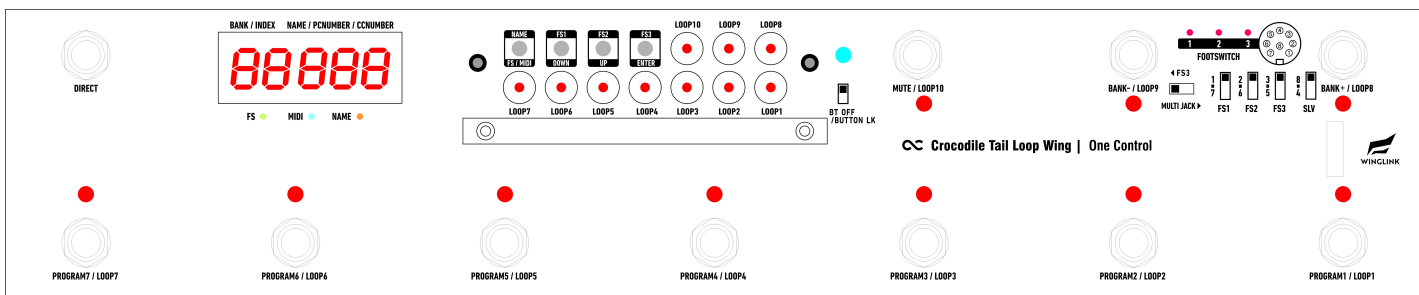
PC (プログラムチェンジ)	説明
0～167	OC10W 本体のプリセットをロード バンク A1-PROGRAM1 から順にバンク F4-PROGRAM7 まで)

CC ナンバー	値 (Value)	説明
0	0-63	マスターバイパス (OC10W バイパス)
	64-127	マスターバイパス (OC10W ON)
103	0-63	マスターミュート (ミュート OFF)
	64-127	マスターミュート (ミュート ON)

・MIDI OUT

MIDIメッセージを出力し、アンプや外部エフェクターを操作します。

2. トップパネル



・PROGRAM/LOOP

プログラムモードの場合、これらのスイッチはセッティングの呼び出しに使用します。ダイレクトモードの場合、これらのスイッチは直接LOOP1～7に割り当てられます。

・DIRECT

OC10Wをダイレクトモードにします。ダイレクトモードでは各ループをPROGRAM/LOOPフットスイッチで個別にON/OFFすることができます。ダイレクトモードではBANK+でループ8、BANK-でループ9、MUTEでループ10のON/OFFを行います。

・MUTE

OUT1 と OUT2 からの出力がミュートされ、INPUT 端子から入力された信号がそのまま TUNER 端子から出力されます。再度スイッチを押すとミュートが解除されプログラムモードに戻ります。

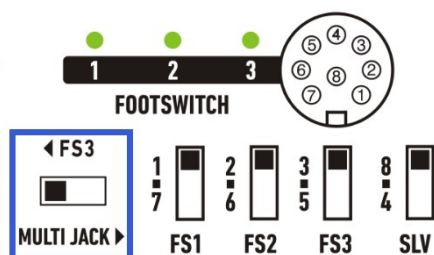
また、MUTE スwitch を踏むと、MIDI CC#103 が送信されます。これは OC10W を2台使用してリンクさせるために使用する信号です。MIDI Out から別の機材に接続している際にこの信号で機材が動作してしまう場合は、受信機器側の MIDI チャンネルを変更してください。

・BANK+、BANK-

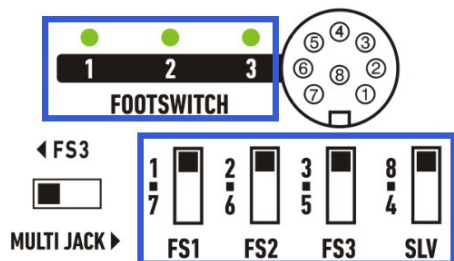
OC10Wの24のバンクを選択します。BANK+を押すとバンクが1つ上がり、BANK-を押すと下がります。BANK+またはBANK-を押してからPROGRAMスイッチでプリセットを選択するまで、現在ロードされているプリセットは変更されません。バンクはA1、A2……F4と選択され、さらにBANK+を押すとA1に、バンクA1でBANK-を押すとF4に戻ります。

・FOOTSWITCHパネル

トップパネル左上にあるパネルで、3つのラッチスイッチをコントロールします。



FS3/MULTI JACKスイッチは、FS3/MULTI JACK端子のモードを切り替えます。FS3モードではFS3ラッチスイッチのシグナルを出力します。MULTI JACKモードでは、FS1(T)+FS2(R)とFS2端子は無効となり、モノラルケーブルでFS1~3のスイッチングを電圧差によって出力します。これは一部のヴィンテージアメリカンアンプ等の、モノラルケーブルで3つのフットスイッチを制御するアンプに対応しています。

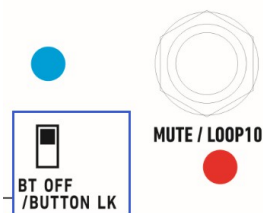


8PIN DINジャックはFS1~FS3とSLVの4つのスイッチで各端子の役割を設定します。FS1スイッチはDINジャックのピン1またはピン7に、FS2はピン2またはピン6に、FS3はピン3またはピン5に割り当てることができます。SLVはスリーブ(グラウンド・アース)で、ピン8またはピン4に割り当てることができます。

実際に使用するアンプのスイッチ端子に合わせて設定をおこないます。

また、3つのフットスイッチのステータスは3つのLEDで表示されます。

・BT OFF/BUTTON LK

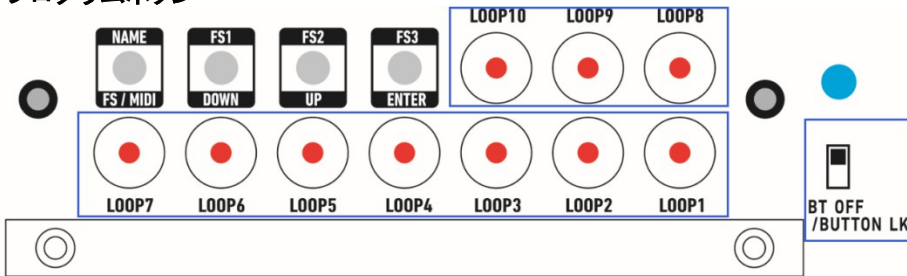


このスイッチが下側のポジションにあるとき、プログラムボタンをロックし、Bluetooth接続をOFFにします。このモードではダイレクト

モードでループON/OFFを切り替えてもそれが保存されません。

ステージ上など、プリセットを一切変更したくないときに使用します。プリセットを編集したり、Bluetoothでアプリと接続する際は上側のポジションにします。

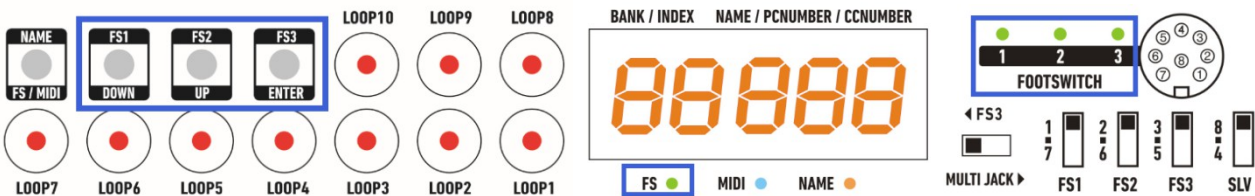
・プログラムボタン



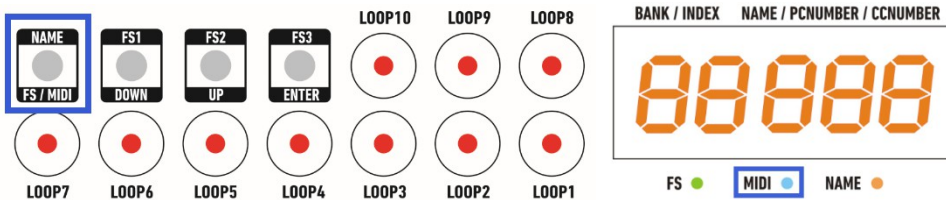
プログラムボタンはプリセットの編集に使用します。編集したいプリセットをBANK+/-とPROGRAM/LOOPフットスイッチで選択し、ボタンを押して各ループのON/OFFを切り替えます。BT OFF/BUTTON LKスイッチが上側になっていることを確認します。下側の場合、プログラムボタンは応答しません。

・マルチファンクションボタン

プログラムボタンの左上には4つのマルチファンクションボタンがあります。BT OFF/BUTTON LKスイッチが上側になっていることを確認し、このボタンを操作してみましょう。

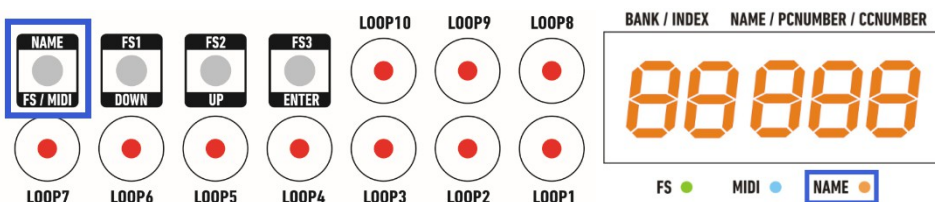


はじめにFS1～FS3ボタンを押すとディスプレイ下のFS LEDが点灯し、3つのラッチスイッチのON/OFFを切り替えます。ラッチスイッチのステータスはFOOTSWITCHパネルのLEDで確認できます。



NAME/FS/MIDIボタンを押してディスプレイ下のMIDI LEDが点灯したら、選択したプリセット選択時に送信されるMIDI PCとCCの設定が行えます。MIDIの設定はMIDIチャンネル1のPC#、CC#、CC値(小文字)、MIDIチャンネル2のPC#.....と続き、MIDIチャンネル16まで設定することができます。設定したい項目の数値はDOWN、UPボタンで行います。設定する項目を探す時、また項目の数値の設定が終わったときはENTERボタンを押します。

設定中のディスプレイ左側に設定する項目が表示されます。P1はMIDIチャンネル1のPCナンバー、C4はMIDIチャンネル4のCCナンバー、V8はMIDIチャンネル8のCCの値(Value)です。つまり、ディスプレイ左側の数字はMIDIチャンネルを示し、PはPC、CはCCナンバー、VはCCの値を意味します。



NAME/FS/MIDIボタンを押してディスプレイ下のNAME LEDが点灯したら、選択したプリセットのプリセットネーム編集が行えます。現在編集中の文字が点滅し、DOWN、UPボタンで文字を変更します。文字が決まったらENTERボタンで次の文字に進みます。プリセットネームは最大5文字まで登録できます。5文字目を編集してENTERボタンを押すと1文字目の編集になります。プリセットネームの編集が終わったらNAME/FS/MIDIボタンを押してモードを変更することで保存されます。

※プリセットネームはENTERを押した際に1文字ずつ保存されています。つまり、点滅中の文字はボタンにより文字が変更されていてもまだ保存されていません。文字を変更する際には必ずENTERボタンを押して確定を行ってください。

・DIRECT



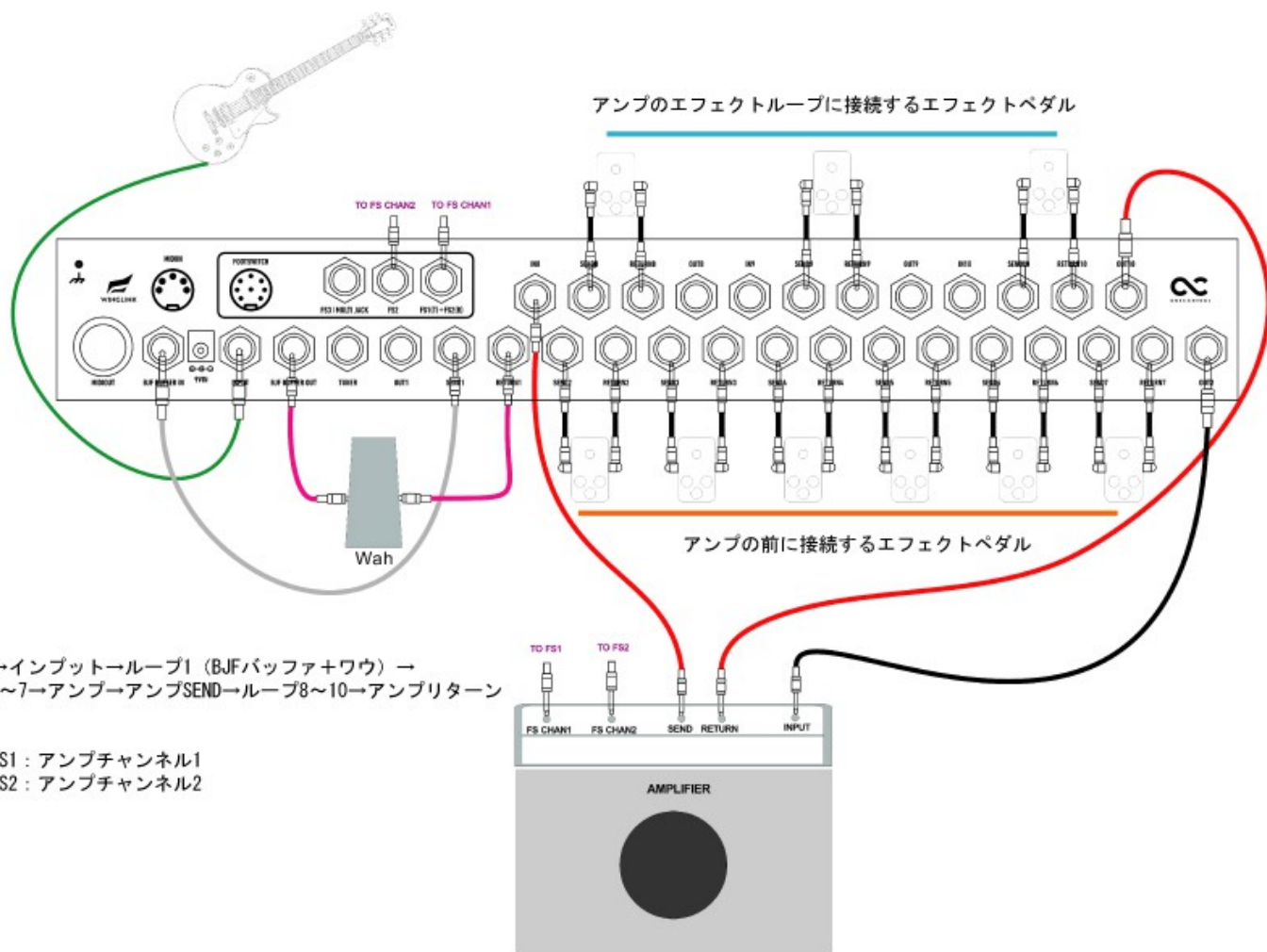
DIRECTスイッチを押すと、10のエフェクトループがフットスイッチで個別にON/OFFできるようになります。DIRECTスイッチを再度押してプログラムモードに戻る時の動作はBT OFF/BUTTON LKスイッチにより異なります。

BT OFF/BUTTON LKスイッチが上側のとき、ダイレクトモードからプログラムモードに戻ると、選択されていたプリセットの内容がダイレクトモードで行った操作の内容に保存されています。

つまり、ダイレクトモードを使用してプリセットをフットスイッチだけで編集することができます。

BT OFF/BUTTON LKスイッチが下側のとき、ダイレクトモードからプログラムモードに戻っても、プリセット内容は変更されていません。このとき、ダイレクトモードは各ループのON/OFFの確認のみに使用され、プリセットに影響しません。

3.接続例



4.スペック

コントロール: スイッチ×11 (プログラム/ループ1~7、バンクアップ/ループ8、バンクダウン/ループ9、ミュート/ループ10、ダイレクト)、プログラミングキー×10 (ループ1~10)、FS1~3、NAME、BT OFF/BUTTON LK、FS1~FS3スライドスイッチ、FS3/MULTI JACKスイッチ

入出力端子: インプット×2 (BJFバッファ/ノーバッファ)、アウトプット×3 (パラレル出力×2、バッファアウト)、チューナーアウト、 SEND/リターン×7、独立ループ (イン/SEND/リターン/アウト) ×3、FS1+FS2ステレオアウト、FS2、FS3/MULTI JACKアウト、8PIN DIN フットスイッチアウト、MIDIイン、MIDIアウト

電源: OC10WはスタンダードなセンターマイナスDC9-12Vアダプターで駆動します。消費電流は400mA

サイズ: 44(L) x 10(W) x 6.4(H) cm

重量: 約1.34kg